

親の顔が見たい

作／畑澤聖悟

【登場人物】

森崎次郎（45）

「森崎志乃」の父

森崎雅子（47）

「森崎志乃」の母

長谷部亮平（40）

「長谷部翠」の父

長谷部多恵子（42）

「長谷部翠」の母

辺見重宣（77）

「辺見のどか」の祖父

辺見友子（69）

「辺見のどか」の祖母

八島操（38）

「八島麗良」の母

柴田純子（39）

「柴田愛理」の母

井上珠代（34）

「井上道子」の母

中野渡正治（59）

校長

原田茂一（55）

学年主任

戸田菜月（25）

2年3組学級担任

遠藤亨（31）

新聞配達店の店長

季節は冬。午後七時頃。星光女子中学校会議室。
舞台正面に入り口。方形に配置された会議用テー
ブルとイス。原田、入ってくる。続いて純子。

原田 どうぞ、こちらです。

純子 どうも。

原田 こちらの方に（と、イスをすすめる）

純子 はい。

純子
原田

すみません。主人もまもなく来ると思っていますので。
わかりました。

純子、イスに座る。

原田、退場。緊張の面持ちの純子、おそろおそろ
周囲を見回す。と、戸田登場。

あ、（と、腰を浮かす）

無言で純子に近づく

あの、

・・・お茶とコーヒー、どちらがいいですか？

・・・いえ、お構いなく。

コーヒーで、いいですか？

いえ、お構いなく。

失礼します。

戸田、退場。間。

純子、携帯電話をプッシュするがつかまらない。

（留守電に吹き込む）学校につきました。お父さん、ど
うしよう。わたし一人だよ。大至急、連絡下さい。お願
いします。

純子、携帯を切る。と、原田、登場。続いて操。

原田 どうぞ、こちらです。

操 どうも。

原田 どうぞ（と、イスをすすめる）

操 はい。

操、イスに座る。

原田 こちらのほうでしばらくお待ちください。
 操 くれぐれもお願ひしますね。
 原田 大丈夫です。学年の教員がちゃんとついてますから。
 操 出来れば早く連れて帰りたいんですけど。
 原田 皆さん、お揃いになりましたらすぐ始めさせていただきます。
 操 どれくらいかかりますか、時間？
 原田 さあ、それはちよつと判りかねます。
 純子 すいません、先生。
 原田 为什么呢。
 純子 主人なんです、どうも連絡取れないんですよ。
 原田 あらあ。
 純子 まあ、そのうち、つながると思いますけど。
 原田 まだ皆さんおそろいじゃないし、大丈夫ですよ。
 純子 はあ。
 原田 ……では、失礼します。

原田、退場。純子と操、取り残される。

純子 こんばんわ。
 操 ……こんばんわ。
 純子 二年三組のご父兄の方ですか？
 操 ……そうですね。
 純子 ご苦勞様です。
 操 中学生の女の子、四時に呼び出して、七時まで学校に置いておくなんてどういうこと？
 純子 まあ、でも、仕方ないですよ。今朝、クラスであんなことになって。
 操 ウチのレイラは関係ないんだけどな。
 純子 ……はい。
 操 ホント非常識よね。

と、戸田が戻ってくる。

3 4

純子 あ。
 戸田 ……コーヒーがなかったんですよ。
 純子 あ。
 戸田 お茶でいいですか？
 純子 ……いえ、お構いなく。
 戸田 あ、お茶でいいですか？
 操 いえ、お構いなく。
 戸田 お茶でいいですよ？
 操 ……戸田先生ですよ？
 戸田 ……はい。
 操 レイラがお世話になっております。
 純子 (思い出したように) あ、世話になっております。
 戸田 あ、いえ。
 操 普段の生活でなにか変わったこと、ありませんか？
 戸田 ……いえ、特に。
 操 いま、どうしてますかね？レイラ。
 戸田 え？
 操 心配なんですよね、あの子、デリケートなもので。
 戸田 じゃあ、いちおう覗いてきます。
 操 お願いします。
 操 あ、コレ渡してもらえませんか？

操、戸田にエヴィアのペットボトルを渡す。

操 ウチの子、水道水飲めないんで。
 戸田 判りました。
 純子 先生、
 戸田 ……はい。
 純子 ……はい。
 戸田 ……すいません。いいです。
 戸田 ……失礼します。

間。

純子　なんか、学校って落ち着かないですよ、ね。
操　え？
純子　このスリッパが良くないと思うんですよ。
操　スリッパ？

二人の足には、茶色のビニール製スリッパ。
「星光女子中学校」のネーム入り。

純子　ビニールだし、てかてか光ってるし、ネーム入りだし、なんか
病院みたいじゃないですか。
あー。

操　ぺたぺた音がするし、どうも好きになれないんですよ。
純子　足下がおぼつかない、っていうんですか？・・・先生たち
はだいたいズックですよ。・・・なんで、スリッパ
はかないんでしょうね。・・・ね、どうしてでしょうね？
・・・お客さんと区別するためでしょ？
・・・そうか。

操　だいたいスリッパなんて、シャワー浴びてから寝室で履
くもんですよ。
純子　あ、そうなんですか。

間。原田、登場。少し遅れて亮平と多恵子。

原田　どうぞ、こちらです。
亮平　どうも。
原田　こちらにお掛けになってお待ちください。
亮平　はい。
原田　失礼します。
亮平　ごくろうさます。

原田、退場。

純子　どうも。
亮平　どうも。
純子　二年三組のご父兄の方ですか？
亮平　そうです。

間。と、戸田登場。お盆にお茶を乗せている。

戸田　・・・お待たせしました。

と、純子にお茶を。

純子　どうも。

操にお茶を。

戸田　どうぞ。
操　どうも。
戸田　レイラさんにお水渡しました。

操　どんな感じでした？

戸田　・・・え？
操　あの子、すぐくショック受けてたもんですから。
戸田　心配なさらないでください。気をつけて見てますから。

操　よろしく願います。

多恵子　先生。

戸田　・・・はい。
多恵子　いつもお世話になっております。

戸田　・・・みなさん、お茶でよろしいですか？
亮平　いえ、お構いなく。
戸田　・・・

原田登場。その後ろに重宣と友子。

5
6
原田　戸田先生。

戸田 あ。
原田 なにやってるんですか。
戸田 ・・いや、その、お茶を。
原田 そんなこと、いいから。
戸田 そういうわけにはいきませんよ。
原田 ここは私に任せて。休んでなさい。
戸田 わたし、大丈夫ですから。
原田 いいから、ね。
戸田 ・・・・・・・・わかりました。

戸田、一礼して退場。

原田 どうぞ、こちらです。
重宣 どうも。
原田 こちらにお掛けになってお待ちください。
重宣 はい。
原田 失礼します。
重宣 どうも。

重宣と友子、三人に会釈して座る。

純子 二年三組の・・・ご父兄の方ですか？
重宣 そうです。
純子 どうも、失礼しました。
亮平 担任の先生？
多恵子 そう。
亮平 ずいぶん若いな。
多恵子 ・・・去年来た先生。新卒で。
亮平 新卒で新採用？
多恵子 そうみたい。
純子 なつき、って呼んでるみたいですよ。
亮平 なつき？
純子 とだなつき、っていうんですよ。先生。

亮平
純子
亮平

あー。
今日、なつきにおられちゃったー。とか、普通に言ってますよ。ウチの子。弱っちいけどいい先生だつて。
・・・そうですか。

原田、登場。続いて次郎、雅子。

原田
次郎
雅子
原田
次郎
原田
次郎
原田
次郎
原田
雅子
原田
雅子
原田
雅子
原田
雅子
原田
雅子
原田
次郎

どうぞ、こちらです。
どうも。
失礼します。
急にお呼びだてして申し訳ありませんでした。
いいんですよ。丁度時間あいてて。主人も。
ホントは八時からちようど会合あったんですけど、
すいません、お忙しいところ。
いえ。ま、学校の一大事ですから。
ありがとうございます。
大変ですね。朝から。
ええ、まあ。
私も、もうとにかく、びっくりしてしまつて。
はい。
同窓会の方としても、出来る限りのことはいたしますので。なんでもおっしゃってください。
・・・ありがとうございます。
あ、臨時全校集会やるんですつて？
そうです。明日の九時。
同窓会長は出席した方がいいかしら。
・・・それは、お任せします。
そ。あ、星光会館の件、なんとかかなりそうですつて。
ホントですか。
ねえ、
本社の役員会で決定しまして。額の方は未定ですけど。
ありがとうございます。
この機会ですから、床だけじゃなく天井も張り替えちゃ

原田 次郎 次郎
いましょうよ。だいぶ老朽化してますからね。
ほんと、おかげさまで。

純子 純子
えーっと、あとお一方、柴田さんのご主人がお見えになれば全員と言うことになるんですが。

純子 純子
すいません、まだ連絡取れなくて。
お忙しいんですね。
もういつかい、電話してみます。
どうぞ。

純子、部屋の隅に移動し、携帯電話を取り出す。
プッシュするがつかない。

純子 純子
あ、すいません。やっぱりつながらなくて。

原田 純子
おやあ。
始めちゃってください。どうぞ。

原田 純子
では、校長を呼んで参ります。

雅子 雅子
あの？

原田 雅子
はい。

雅子 雅子
講堂に移動ですか？

原田 雅子
いえ・・・。

雅子 雅子
他の皆さんも別の部屋にお揃いなんですよ？

原田 雅子
・・・校長の方から説明させていただきますんで。では。

原田、答えず退場。

間。戸田登場。お盆にお茶を二個乗せている。

戸田 戸田
お待ちせしました。

と、亮平と多恵子にお茶を。原田退場。

亮平 亮平
恐縮です。
多恵子 多恵子
どうも。

9

10

操 操
雅子 雅子

亮平 亮平
操 操

雅子 雅子
操 操
雅子 雅子

次郎 次郎
雅子 雅子
次郎 次郎
雅子 雅子

戸田 戸田
雅子 雅子
戸田 戸田
雅子 雅子

先生。
どうも。
このたびは、大変でしたね。

戸田 戸田
いえ。
あの、説明会の会場って、ここなんですか？
みなさん、お茶でよろしいですか？
いや、あの・・・
失礼します。

戸田、退場。

大丈夫かな。
なんか、様子変ね。

そりや変にもなるだろ。自分のクラスで。
んー。
しかも、第一発見者だって言うじゃないか。

純子、部屋の隅に移動し、携帯電話を取り出す。
操、煙草を取り出し、火をつける。

ちよつと、あなた、なにやってるの？
なにつて？

それって非常識じゃない？
大丈夫。ちゃんと携帯用持ってますから

と、操、携帯用灰皿を取り出す。

そういう問題じゃなく、学校ってトコロは禁煙なの。
でも学校の先生は吸ってるでしょ？

いや、今はどこの学校でも禁煙ですよ。校地内全面禁煙です。

そうなの。
アタリマエじゃない。まったく。

操、煙草を消す。

純子
(留守電に吹き込む) 馬鹿!

と、中野渡、登場。原田も。

中野渡
全員
どうも、みなさん、こんばんわ。校長の中野渡です。
(頭を下げる)

中野渡、戸田、座る。

中野渡
このたびは、お忙しいところお集まりいただきまして誠に有難う御座います。テレビ、夕刊等で十分ご存じのことと思いますが、今回の事件の概略を原田学年主任の方からご説明申し上げます。では、原田先生。

原田、前に出る。

原田
本今朝、本校二年三組の井上道子さんが、自殺しました。詳細について申し上げます。本校二年三組担任の戸田が、第一発見者でございます。午前七時一〇分の開門と同時に出勤した戸田は、職員室で校務処理をしたのち、午前七時四〇分頃に、備品交換のため教室に出掛けました。そこで、黒板の上の校内放送用スピーカーにビニールひもを掛けた状態で首を吊っている井上道子さんを発見したわけです。戸田はすぐ職員室に連絡し、駆けつけた男性教諭らとともに、AED・自動体外式除細動器、および人工呼吸による蘇生を試みましたが、既に心肺停止の状態にあり、一一九番で駆けつけた救急隊員により、午前七時五七分、死亡が確認されました。誠に残念なことと言うより他ありません。既に一〇〇人ほどの生徒が登校している状態でありましたが、校長判断による臨時休

11

12

亮平

原田

次郎

原田

亮平

原田

亮平

中野渡

亮平

中野渡

亮平

原田

校の措置を執り、登校した生徒は全員帰宅させました。警察の捜査・現場検証は午前八時三〇分から始まりましたが、午前十一時二三分に終了。ほぼ自殺と見て間違いないだろうという判断が下されたわけです。私どもの方では、臨時職員会議を経まして、一六時、二年三組の生徒さん全員に連絡して再度出校してもらい、事実を説明するとともに、事情聴取をおこないました。

事情聴取?

教室で自殺を行った以上、原因がクラスに関連している可能性を考えなければなりません。

・・・そうでしょうね。

井上道子さんの自殺に関して、なにか心当たりのある者はいないか、聞き取り調査を行いました。

なにか、わかったんですか?

この時点ではわかりませんでした。

この時点では?

事情聴取中の、本日午後五時ごろに、本校の住所で戸田宛に封書が届きました。

封書?

差出人は井上道子。・・・生前に投函したものと思われる。

遺書ってことですか・・・?

原田、立ち上がり、スーツの内ポケットから封書を取り出し、読む。

「私はクラスで友だちからいじめられています。最初は無視されるだけでした。原因はよくわかりません。ただわかることは、私が悪いらしいのです。だからあやまつてみました。でもゆるしてくれてませんでした。なんだかわけがわからなくなってきました。いじめはだんだんハードになってきて、学校に行くのもつらくなってきました。

した。あさ起きるのも気が重くなって、そんな自分がともいやになりました。本当にごめんなさい。先生には何度も『大丈夫』って聞かれたけど、何も話せませんでした。心配掛けてごめんなさい。一緒にお弁当食べようって、言ってくれてうれしかったです。先生の授業は楽しかったです。先生のクラスで良かったです」

原田、ためらうように間を取り、再び読み始める。

原田 「二年三組。志乃、翠、のどか、麗良、愛理」

原田、手紙をスーツの内ポケットにしまう。着席。間。

次郎 どういうことですか？

原田 お聞きになったとおりです。

次郎 名前が？

中野渡 書いてあるんです。

純子 なんで、ウチの子の名前が書いてあるんですか？

中野渡 なんで、と言われましたも。

雅子 なんで、ウチの子の名前が最初に出てくるんですか？

中野渡 いや、なんで、と言われましたも。

間。

原田

この手紙をうけまして、名前のあった森崎志乃さん、長谷部翠さん、辺見のどかさん、八島麗良さん、柴田愛理さん、以上五名の生徒から重点的に事情聴取すると共に、他の生徒は帰宅させました。

雅子 じゃあ、今残ってるのはウチの子達だけなんですか？

原田 そうです。

雅子 呼ばれた親も、私たちだけってことですか？

13

14

原田 そうです。

間。

操 事情聴取って、どういう事ですか？

原田 ひとりひとりから本校の職員が事情を聞いております。

操 犯人扱いですか？

原田 いや、そういうわけではありません。

中野渡 ご理解ください。われわれとしても一応、万全の対策を

尽くさなければならぬわけですから。

原田 それでですね、一応皆さんにお伺いしたいんですが、お子さんについてご家庭でなにか変わった様子など、あり

ませんか？

操 ウチの子がいじめをしたっていうことですか？

原田 いえいえ。

操 それで道子ちゃんが自殺したって事ですか？親は責任と

れってことですか？

中野渡 いえいえいえいえ。

操 だから、そういう集まりなんでしょ？これは。

中野渡 そうは申し上げません。そうは申し上げません、が。

操 「が」ってなに！

間。

中野渡

えー、我が校では校訓の「真理・友愛」に乗っ取り日頃から教師一丸となって、神の御心に叶うべく、人間教育に取り組んでまいりました。ひとりひとりに思いやりをはぐくむための、思いやりに満ちた学校作りに努力して参りました。教職員一同深く驚き、そして悲しんでおります。

次郎 ・・・・で、われわれに、どうしろとおっしゃるんですか？

原田

えー、どうしましょうか。

次郎 ふざけてるんですか？

中野渡 いえ、その、ただいろいろご相談申し上げようと思いま
して。

雅子 相談？

中野渡 今後の対応について、です。

と、お茶を七個乗せたお盆を持って戸田、登場。

戸田 失礼します。

中野渡 戸田先生。

原田 休んでなさいって、言ったじゃないか。

戸田 なに言ってるんですか、全然問題ないですよ。

次郎 顔色悪いですよ。

戸田 そんなことはありません。いつもお世話になってましてど
うも。

次郎 いえ。

と、お茶を配り、ちよこんと末席に座る戸田。

原田 戸田先生。

戸田 だいじょうぶです。

雅子 あのー、原田先生。

原田 はい。

雅子 「志乃」って、うちの志乃のことですか？

原田 そうだと、思われます。

雅子 ホントにうちの志乃ですか？

原田 三組に志乃という名前の生徒はひとりだけです。ね、戸
田先生。

戸田 はい。

雅子 そうですか。

間。

15

16

純子

原田

純子

原田

戸田

雅子

戸田

雅子

亮平

原田

亮平

原田

雅子

原田

雅子

原田

雅子

亮平

原田

愛理って名前の子はクラスにもうひとりいるって聞いた
んですけど。

ああ、いますね。秋山アイリさん。

そうそう。うちの子じゃなく、その子だってことはあり
ませんか？

秋山さんは、漢字違います。愛の理（コトワリ）じゃな
く、愛の里（サト）ですから。ね、戸田先生。

はい。

コトワリ？

理科の「理」です。

ああ、そう。

間。

それで、なにかわかりましたか？

え？

その、ウチの子達を聴取した結果です。

いえ、特に。ただ全員同じグループに所属していたとい
うことはわかっています。この五人に道子さんを加えた
六人ですな。

グループってなんですか？

仲良しグループのことです。生徒の行動はなんでもグル
ープ単位ですから。

それは、学校で決めるんですか？

いえ、生徒の間で自然に決まるんです。仲のいい子同志
が集まって。一緒に教室移動したりとか、一緒にお弁当

食べたりとか。すごく気を遣うんです。いまの子は。グ
ループ入れないと、ずっとひとりぼっちですから。

なるほど。

でも、どうやら最近、あんまり仲がよくなかったらしい
ですね。

どういうことですか？

道子さんがお弁当、教室でひとりで食べてたときがあつ

て、そのときは「どうしたの」って聞いたら「グループ外されちゃった」と答えたそうです。戸田先生から聞いたんですが。先月のクリスマス礼拝のあたりから、どうもそのような傾向があったようです。

外された？
はい。

純子
原田
それは、仲間はずれていうことですか？

平たく言うとなんかということになるんじゃないでしょうか。でも「いじめはなかった」と、五人とも口を揃えております。

操
そりやそうでしょ。

重宣
本当ですか？

原田
え？

重宣
五人とも確かにそう言ってるんですか？

原田
そうですが、なにか？

重宣
・・・いえ。

亮平
いま、子供達はどうしてるんですか？

原田
それぞれ、別々の部屋でひとりずつ待機してもらっています。

操
一人ずつ？

原田
この先、新しい情報がないとも限りませんので。

操
先生、ウチの子のことわかってるんですか？

原田
え？

操
できるだけ一人にしないでくださいって、お願いしてありますよね。転入の時。

原田
ご安心下さい。教員が一人ずつ付き添っておりますので。ご理解ください。われわれとしても一応、万全の対策を

中野渡
尽くさなければならぬわけですから。

操
会わせていただけませんか？ウチの子に。

中野渡
いまでもですか？

操
はい、今すぐ。

中野渡
困りましたね。

原田
あのー、ご遠慮いただけますか？

17

18

操
どうしてですか？

原田
もう少し、お預かりしたいところなんです。

操
やっぱり犯人扱いじゃありませんか！

原田
そんなことはありません。

操
ウチの子がいじめをしたなんて、先生、ホントにそう思

中野渡
ってらっしゃるんですか？

操
いえ、決して、そういうわけでは・・・

中野渡
レイラがそんなことするわけないじゃありませんか。

操
ああ、はい、まあ・・・

中野渡
私も、志乃に会いたいです。会ってハナシを聞けばすぐ

雅子
判ると思うんですよ。だって、ねえ。

次郎
うん。

雅子
そんな陰湿なことするタイプじゃないじゃないですよ。

中野渡
ええ、まあ。

純子
ウチの子も、何かの間違いじゃないかって思うんですけ

ど、

中野渡
いや、親御さんのお気持ちは十分理解できます。

操
そういう問題じゃないんです。レイラは違うんですよ。

雅子
先生、ご存じじゃありませんか。

操
なんであんなとこだけ違うのよ？

雅子
違うものは、違うのよ。

操
説明になってないわよ。

雅子
あの、すいません。いまそんなこと言っても仕方ないん

え？

雅子
事実を調査するのは学校の義務ですから。そこは我々も

理解しないと。

・・・

雅子
このハナシが終わったら一緒に帰れるんですよ？

亮平
はい。

原田
だったら、私はいいです。

亮平
間。

戸田 私、子供達の様子、見てきます。
中野渡 あ、そうですか。それがいい、それがいい。

戸田、退場。

亮平 親御さんへの連絡はどのようにされましたか？
原田 はい。道子さんの遺体が見つかってすぐ、お母さんに電話連絡いたしました。あいに勤務中で連絡が取れませんでした。病院搬送後、ようやく連絡取れまして、九時頃、病院の方で対面されました。

亮平 朝の七時に勤務中ですか？
原田 はい。

亮平 どんなオシゴトされてるんですか？
原田 いや、それにつきましては、井上さんの個人情報に関わる問題でして、

亮平 ……
原田 おそれいます。

亮平 お宅の方には、行かれましたか？
中野渡 はい。私がさっき、伺いました。その、お通夜に。すぐ近所なんです。

亮平 どんな感じだったんですか？
中野渡 もちろん、悲しんでいらつしやいました。そうじゃなくて。責任を追及するとか、そんな雰囲気は

亮平 なかったですか？
中野渡 いや、それどころじゃないご様子でした。なにか、話されましたか？

亮平 同じクラスの生徒さんを集めて事情を聞いているところだと、話しました。
遺書の件は？

亮平 話しておりません。
中野渡 そうですか。
とりあえず、みなさんにご相談してからと思っております。

19

20

亮平

雅子

原田

雅子

原田

雅子

雅子

原田

雅子

原田

雅子

原田

雅子

した。私どもも正直とにかくどう対応してよいやらわからなかったものですから。

はい。わかります。
原田先生。

はい。
遺書、拝見してもいいですか？
どうしてですか？

ちよつと確認したいことがありまして。

原田、中野渡を見る。中野渡、頷く。原田、内ポケットから遺書を取り出し、雅子に渡す。

ありがとうございます。

雅子、遺書を押し頂くようにしてから読む。

あー、やっぱり。
え？

「先生の授業は楽しかったです。先生のクラスで良かったです」「二年三組。志乃、翠、のどか、麗良、愛理」。
戸田先生への感謝の言葉の後に名前が続いていますね。そうですね。

これは、うちの子たちに対する感謝の気持ちだったんじゃないかもしれませんか？ありがとうございます、ごめんね、ってことです。え？

ま、確かに、最初に「いじめられています」って書いてありますから、名前とつなげちゃいますけど、そうじゃないんですよ。

おっしゃる意味がよくわかりませんが。
いじめの加害者は他にいるんですよ。でも、うちの子たちはグループが変わっちゃったから助けたくても助けられなかった。

さあ、それは。

雅子 素直に読んだら、そう読めませんか？
原田 申し上げにくいんですが、多少強引じゃありませんかね？

雅子 そんなことないと思うんですけどね。
原田 お返しいただけますか。
雅子 ・・・・どうぞ。

雅子、手紙を返す。

次郎 その遺書、親御さんにはまだ見せてないっておっしゃいましたよね？
中野渡 はい。

次郎 「まだ」ってことは、いつかは見せるって事ですか？

中野渡 まあ、それが当然だと思いますけど。

次郎 じゃあ、向こうの親御さんに名前が知れるわけですね。

中野渡 まあ、そういうことになりますね。

次郎 マスコミとか、そっち方面に公表ってことになるんですか？

原田 なるかもしれません。

次郎 それ、なんとなくありませんか？

原田 いや、それは親御さんの判断ですから、私どもの口出しできることではありません。

雅子 あのー、ちよつと、先生。
原田 はい。

雅子 母の代からこの学校にはずいぶん、こー、いろいろと貢献させて頂いてきたように、思うのですけど・・・。
原田 それとこれとは、別問題ですよ。

間。

亮平

いじめの事実が確認出来ないことは、間違いありませんね？まあ、グループがどうしたこうしたという問題はありましたけど。

21

22

中野渡

中野渡

そうですね。少なくとも現時点では。じゃあ、少なくとも現時点では、いじめがあったと断言することとはできないわけですね？

亮平

そう申し上げておかまわないと思います。

中野渡

と、いうことは、その遺書の信憑性には現在疑問があるということになりませんか？つまり、井上道子さんが何

亮平

の根拠もなく五人の名前を書いた可能性が否定できないおっしゃることはわかります。

中野渡

見切り発車は危険じゃありませんか？

亮平

え？

中野渡

その遺書を親御さんに渡すとおっしゃいましたね？

亮平

ええ、まあ、やむをえないかと。

中野渡

親御さんはそれを一〇〇パーセント信用するでしょう。仕方がないです。だって自分の娘の書いた遺書ですから。

亮平

遺書をマスコミに公表するかも知れません。でも、それは濡れ衣かも知れないんですよ。そうなったら子供たちはどうなります？

中野渡

たいへんなことになりますね。

亮平

立派な名誉毀損です。我々は被害者ですよ。

中野渡

はい・・・。

亮平

学校が遺書の内容を鵜呑みにし、親御さんに渡したって

中野渡

事の責任が問われるんじゃないんですか？

亮平

いや、それは・・・。

中野渡

それでも、遺書を渡しますか？

亮平

・・・。

中野渡

これ以上騒ぎを大きくしないようにしたほうがいいんじゃないんですか？

亮平

・・・。

中野渡

学校と親はこの際、協力しあうべきなんですよ。

亮平

学校と親はこの際、協力しあうべきなんですよ。

間。

すみません。ちよつと、協議させてください。われわれ

亮平　の一存では、アレですので。よろしく願います。
中野渡　はい、余計なことを申し上げまして。
原田　はい。

中野渡、原田、退場。

純子　素晴らしいです。
亮平　え？
純子　ひょっとして弁護士さんですか？
亮平　いえ、教員です。高校の。
純子　あ、先生。
亮平　はい。
純子　それでいろいろお詳しいんですね。
亮平　いえ。
純子　ひょっとして、奥様も先生ですか？
多恵子　そうですけど。
雅子　やっぱり。先生同士のご夫婦って多いですね。結構。
亮平　ま、世間狭いですから。
純子　それで、ズックなんですね。
亮平　え？
純子　スリッパ履いてないのはなんでだろうって思っ
亮平　ああ、
純子　どうして、学校の先生って、ズックなんですか？
亮平　走らなきゃならないじゃないですか。
純子　え？
亮平　生徒が逃げたら、追いかけてきやらないし。
雅子　女の先生もですか？
多恵子　逆です。
雅子　逆？
多恵子　生徒が追いかけてきたら、逃げなきゃいけませんから。
雅子　まあ。

23

24

間。

次郎　こんな場合はどうすればいいんですかね？親は？
亮平　え？

次郎　つまり、我が子が加害者の疑いを掛けられてしまった時
亮平　ですよ。
次郎　いちばん大事なのは子供を信じてやることじゃないでし
亮平　ようか。

次郎　信じる？

亮平　親は最後の砦ですから。親が自分のことを信じてる、つ
純子　ていうのは確実に子供に伝わります。そんな親子だつた
亮平　ら、大抵の困難には勝てるんじゃないでしょうかね。
純子　なるほど。

次郎　親子の絆ですね。

亮平　ええ、まあ、平たく言うとなんかそういうことでしょうか。

純子　やっぱり、多いんですか？いじめって。

亮平　ありますね。わりと。

純子　大変でしょう。

亮平　大変だと思います。

純子　思います？

亮平　僕自身は実際にいじめを扱ったことはありませんから。

純子　クラス担任とか、されてるんでしょう？

亮平　ええ。

純子　いじめはないんですか？

亮平　ええ。

純子　まったく？

亮平　ありませんね。私のクラスでは。

次郎　やっぱり指導力ですかね。

亮平　そんなことありませんよ。

次郎　なにか、秘訣とかあるんですか？

亮平　まあ、強いて挙げれば毅然とした態度ってことでしょう
次郎　か。
次郎　それは、ビシバシやるってことですか？

亮平 簡単に言えばそうです。

雅子 でも、いま、体罰ってしちゃいけないんですよ。

亮平 ええ、まあ、そういう時代ですから。

雅子 奥様の学校ではどうです、いじめ？

多恵子 ウチはあります。わりと。

雅子 奥様のクラスでも？

多恵子 ええ。

雅子 公立ですか。

多恵子 そうですけど。

雅子 公立って大変なんですってねー。

多恵子 ・・・・。

亮平 ま、私も都立高校の教員ですが、現場の荒廃っていうのはもはや公立私立の問題ではないですからね。

雅子 あ、事情聴取っていうのは毎回やるんですか？

多恵子 やりますよ。

雅子 嫌な言葉ですよ、刑事ドラマみたいで。

多恵子 そうですね。

次郎 事実関係っていうのは、それでだいたい判るんですか？

多恵子 いや、ほとんど判らないです。

次郎 どうしてですか？

多恵子 生徒は本当のことを言いません。

次郎 え？

雅子 先生を信頼してないってことですか？

多恵子 そうじゃありません。いえ、ある意味そうかも知れませんが。

雅子 どういうことですか？

多恵子 私がいじめました、なんて自分から言う生徒はいません。

雅子 でもそんなの、いろんな生徒からハナシを聞いたら言い逃れなんか出来なくなるんじゃないやしませんか？先生だって、生徒を見てるでしょ。

多恵子 いまのいじめってすごく巧妙なんですよ。

雅子 巧妙？

多恵子 絶対にばれないようにやるんです。もし教師の側にばれ

多恵子

25

26

雅子

操

雅子

操

雅子

雅子

純子

純子

雅子

亮平

純子

次郎

多恵子

純子

多恵子

純子

多恵子

雅子

多恵子

多恵子

雅子

雅子

雅子

雅子

雅子

煙草とライター、お預かりしてもよろしいかしら？

え？

煙草とライター。

あ、ごめんなさい。ついイライラして。

ちよつと、煙草。

操、煙草を取り出し、火をつける。

ま、星光学園だからねー。

うわー。

そう。辞められるんじゃないかって。いられなくなる

なるって事。

万引きして自主退校、つてのはあったわよ。二年前。

自主退校？

加害者の疑いを掛けられた子ってどうなりますか？

あ、の、もしも、もしもですよ。ウチの子がいじめをした

って事になれば、処分とかあるんですか？

高校じゃないんだから退学はないでしょ。

そんなこと言ってます。一般論ですよ。

てたって言うことですか？

ちよつと待つてください。ウチの子たちも、口裏あわせ

う形になっちゃうんですよ。どうしても。

だから結果的にクラス全員がひとりじめをいじめ、つてい

う形になっちゃうんですよ。どうしても。

か、どつちかなんです。傍観者でいることは許されない

んです。下手したら自分がターゲットになってしまいま

すから。

そんな・・・。

その子たちもみんな口裏あわせるんですか？

そうですね。いじめる側になるか、いじめられる側になる

か、どつちかなんです。傍観者でいることは許されない

んです。下手したら自分がターゲットになってしまいま

すから。

たとしても、相談して口裏を合わせる時間なんていくら

でもありませんから。

だつてクラスには実際にいじめに関わってない子もいつ

ぱいいるんですよ？

その子たちもみんな口裏あわせるんですか？

そうですね。いじめる側になるか、いじめられる側になる

か、どつちかなんです。傍観者でいることは許されない

んです。下手したら自分がターゲットになってしまいま

すから。

そんな・・・。

その子たちもみんな口裏あわせるんですか？

そうですね。いじめる側になるか、いじめられる側になる

か、どつちかなんです。傍観者でいることは許されない

んです。下手したら自分がターゲットになってしまいま

すから。

たとしても、相談して口裏を合わせる時間なんていくら

でもありませんから。

だつてクラスには実際にいじめに関わってない子もいつ

ぱいいるんですよ？

その子たちもみんな口裏あわせるんですか？

そうですね。いじめる側になるか、いじめられる側になる

か、どつちかなんです。傍観者でいることは許されない

んです。下手したら自分がターゲットになってしまいま

すから。

そんな・・・。

その子たちもみんな口裏あわせるんですか？

そうですね。いじめる側になるか、いじめられる側になる

か、どつちかなんです。傍観者でいることは許されない

んです。下手したら自分がターゲットになってしまいま

すから。

たとしても、相談して口裏を合わせる時間なんていくら

でもありませんから。

だつてクラスには実際にいじめに関わってない子もいつ

ぱいいるんですよ？

その子たちもみんな口裏あわせるんですか？

操　　なんですか？
このあともきつとイライラすると思うのよ。そうだった
らまた吸いたくなっちゃうでしょ？

　　にらみ合う操と雅子。操、根負けしたように煙
草とライターを渡す。

雅子　この話し合いが終わったら、お返しします。
操　　いらないわよ。ヤスモンだし。
雅子　あ、そ。

　　雅子、煙草とライターを受け取る。戸田登場。

戸田　失礼します。
操　　どうですか？

戸田　普通にしています。麗良さんも、他の四人も。
操　　普通？
雅子　おとなしくしてる、ッてことね？

戸田　・・・ええ、まあ。
次郎　そりやそうだろ。人ひとり死んでるんだから。

　　純子、部屋の隅に移動し、携帯電話をかける。
　　しばらく「トゥルルル」を聞くが、切る。

雅子　まだつながらないの？
純子　ええ。

　　中野渡、原田、登場。

中野渡　すいません。お待たせいたしました。

　　一同、居住まいを正す。

27

28

中野渡

亮平

中野渡

原田

亮平

雅子

原田

雅子

原田

雅子

雅子

ただいま、私と教頭と学年の職員とで緊急に協議いたし
まして、遺書については公表しない方向で進めさせてい
ただくことになりました。

賢明な処置、感謝します。

いえいえ。

少なくとも事実が確認できるまでは、ということですが。

ええ、まあ、そうですね。

原田先生。

はい。

道子ちゃんの手紙、拝見してもいいですか？

どうしてですか？

道子ちゃんの思いをしっかりと受け止めておきたいんです。

原田、中野渡を見る。中野渡、頷く。原田、内
ポケットから遺書を取り出し、雅子に渡す。

ありがとうございます。

雅子、手紙を押し頂き、部屋の隅（ゴミ箱の近
く）に移動して開く。

戸田先生、ひとつ質問なんですけど。
なんででしょう？

井上道子さんには、なんといいましたよ、その、嘘を
つく傾向というのはなかったんでしょ？

ありません。

それは先生に対しては、ということですか？

私に対してもクラスメートに対しても、嘘はついてなか
ったと思います。

じゃあ、たとえば嘘をつくとはでは行かなくても、なに
かこう、注目を集めるために変わった行動をとるような
ことはありませんでしたか？

あの、何がおっしゃりたいんですか？

と、雅子、ライターを取り出し、遺書に火をつけている。

原田
おい！

雅子、火の付いた遺書をゴミ箱へ。

雅子
道子ちゃん。あなたの痛み、ちゃんと受け取りましたよ。
原田
なんてことを！

戸田、駆け寄って灰を拾い、大事そうに見る。

森崎さん。

念を押させていただきます。

原田
雅子
このことが親御さんに知れたら、どうするんですか？

原田
雅子
そこいらの学校じゃありませんよ。星光学園ですよ。星光学園でいじめなんかあっていいんですか？

原田
雅子
それは・・・。

原田
雅子
よくないでしょ。アタリマエですよ。そんなこと、判

原田
雅子
てるじゃないですか。

原田
雅子
いや、しかし。

原田
雅子
先生も共犯ですよ。

原田
雅子
え？

原田
雅子
だって止めようと思えば止められたはずですよ。こんな手

原田
雅子
紙なんてない方がいいと思っただけなんですよ。

原田
雅子
無茶苦茶です、それは。

原田
雅子
（亮平に）どう思われます？

亮平
雅子
・・・仕方ないんじゃないでしょうか。・・・燃えてしま

原田
亮平
まったものじゃない。

原田
亮平
どういふことですか？

原田
亮平
なかったことにするしかないんじゃないでしょうか？

原田
亮平
まさか、そんな。

29

30

亮平

純子

亮平

原田

亮平

中野渡

亮平

中野渡

亮平

中野渡

亮平

中野渡

亮平

戸田

亮平

戸田

亮平

戸田

亮平

中野渡

亮平

中野渡

亮平

中野渡

亮平

中野渡

亮平

中野渡

亮平

中野渡

亮平

中野渡

原田

私も、どうかとは思いますが。でも、他にどうしようもありませんよ。現物はもうないわけですから。

そうですね。

遺書はあったけど、燃えちゃいました、なんてのは相当

まずくありませんか？学校的に。

それは、おっしゃるとおりですけど。

この遺書のことを知ってるのは我々の他に？

教頭と、学年の教員が六名です。

それくらいだったらなんとかなるんじゃないやありませんか？

んー・・・

学校のためですよ。

・・・はい。

ここはひとつ、団結しましょう。遺書なんて最初からな

かった。みなさんもいいですね？

一同、頷く。

・・・道子さんが私にくれた、最後の手紙なんです。

先生の気持ちはわかります。でも、あきらめてください。

でも、最後の手紙なんです。

それは、もう、ただの灰ですから。

内線電話が鳴る。原田が取る。

はい。はい。進路指導室です。え、戸田先生？いますよ。

石井加奈子の？・・・いま来てるんですか・・・あ、ち

よっと待って。いま行きます。

原田、受話器を置く。

どうしたんですか？

二年一組の石井加奈子のお母さんが来たそうです。本人

を連れて。いま職員玄関に来てるそうです。戸田先生に

戸田　　会いたいって。
わかりました。
原田　私も行きます。
中野渡　ご苦労様です。
原田　すぐ戻ってきますんで。

原田、戸田、退場。

次郎　何しに来たんですかね？今時分？
中野渡　わかりません。
雅子　違うクラスの子が、何で来たんですか？
中野渡　さあ、わかりません。

間。

中野渡　私もちよつと様子を見てきます。

中野渡、退場。

多恵子　警察に知れたら大変なことになるんじゃないやありませんか？
亮平　そりや多少面倒なことになるかも知れないけど。
多恵子　多少じやありませんよ。証拠隠滅。立派な犯罪です。
雅子　ちよつとごめんなさい。あなたも、親でしょ。
多恵子　・・・そうですけど。
雅子　我が子の幸せを願うのが親なんじゃないですか。
多恵子　そうでしょうね。
雅子　だったら、もう少し足並みを揃えていただきたいです。
多恵子　どういう意味ですか？
雅子　KYってことですよ。今風に言うなら。
多恵子　（苦笑する）
多恵子　あら、なんで笑うんですか？失礼な。
多恵子　すいません。なんかうちの学校を思い出しちゃって。
雅子　どういうこと？。

多恵子

万引きとか、いじめとかに関わった生徒とかに理由聞くとたいていそう答えるんですよ。KYって。「空気読んだだけでーす」って。主体性ないって言うんですか。なにがおつしやりたいんですか？

雅子

別に、なにも。

多恵子

非常識よねー。

雅子

非常識なのはどっちですか。

多恵子

多恵子。

亮平

・・・はい。

多恵子

オマエが悪い。

亮平

・・・。

多恵子

森崎さんに謝りなさい。

亮平

・・・すみませんでした。

雅子

（ため息）

まあ、言葉はいろいろ違いますけど、精神は一緒ですよ。我々は団結しなきゃ。団結して、我が子に降りかかった火の粉を払いのけましょう。

一同、頷く。間。

純子

そういえば、私たち自己紹介とかまだですよ。

次郎

そうですね。

純子

どうでしょうか、ここでひとつ。

多恵子

いや、ここはそんな・・・

雅子

えー、森崎志乃の母です。同窓会の会長の方、やらせて

次郎

いただいております。

純子

森崎志乃の父です。

雅子

バスケット部のキャプテンなんですよ。志乃ちゃんって。

純子

そうです。

亮平

エースですごい活躍してるって言ってました。

多恵子

たいしたことないですよ。

亮平

長谷部翠の父です。

多恵子

・・・長谷部翠の母です。

そうか。覚えてる人、います？

一同、首を振る。

雅子 実はよくないウワサがあるのよ。道子ちゃんのお母さん。どんなですか？

純子 スーパーでパートしてるんですって。

亮平 パート？

雅子 そう。しかも三鷹のスーパー。

純子 ……へー。

亮平 だって家は近所だって言っていましたよね？

雅子 わざわざ電車乗り継いで行く訳ですよ。近所でパートするとばれちゃうから。

亮平 あー、なるほど。

雅子 しかも仕込みの担当だから、朝早いの。

亮平 あ、それで七時に仕事なのか。

雅子 どう思う？

純子 どう思うって？

純子 信じられくない？

純子 ……あー。

雅子 スーパーでパートよ。星光の父兄が。

純子 ……そうねー。

次郎 職業に貴賤はないんだけどね。

雅子 お父さんもないっていうし。

操 いいじゃない。いなくても。

亮平 それは娘さんからの情報ですか？

雅子 いえ、同窓会って人が多く集まるもんですから、情報も自然に集まるんですよ。

純子 へー。

純子 それで、なんか道子ちゃんもバイトしてるんじゃないか

雅子 っていうハナシになつてさ。

純子 バイト？

雅子 信じられないでしょ？ウチの生徒が…バイトなんて。

あり得ないでしょ？

35

36

純子 校則違反ですよ。

雅子 それ以前の問題よ。

亮平 ……その子とも仲良かったんですね。翠は。そうです。

亮平 すいません。学校のこと、何にも話してくれないもんですから。友達のこととかなんにも知らなくて。

次郎 いや、まあ、今の子はだいたいそんなもんですよ。

原田、戸田、中野渡、登場。

原田 すみません、お待たせいたしました。

次郎 ご苦勞様です。

原田 ただいま、二年一組の石井加奈子さんのお母さんと加奈子さん本人が来校しました。

次郎 用件はなんだったんですか？

原田 本日夕方、五時頃、石井加奈子さん宛に封書が届いたそうです。差出人は井上道子。生前に投函したものと思われ。

次郎 ……まさか？

原田 ここにお預かりしてあります。

雅子 ……まさか？

次郎 ……まさか？

原田、内ポケットから封筒を取り出す。

次郎、雅子からライターを取り上げる。

雅子。

「加奈子ちゃん。ご飯一緒に食べてくれてありがとう。

お弁当の中身に泥入れられたとき、ご飯分けてくれてありがとう。帰り道、昇降口で待っていてくれてありがとう。外履きの革靴、一緒に探してくれてありがとう。新しいジャージがなくなったとき、調理室の生ゴミのポリバケツから出てきて、すごく臭かったのにグラ

ドの脇の水道で一緒に洗ってくれて、すごくうれしかった。ちゃんとお礼してないのに、ごめんさない」

原田、少し間を取る。

原田 「二年三組。志乃、翠、のどか、麗良、愛理」

間。と、雅子、猛然と突進し、原田から手紙を奪う。びりびりに破く。

次郎 雅子！

原田 おい！

戸田 ああああああああ！

戸田、悲鳴のような声を上げながら破いた手紙を拾い集めようとする。雅子、負けじとそれを拾い集め、次々に口に入れる。

次郎 出しなさい！出しなさい！

雅子 ふがふが（「いやだ」と言ってるらしい）

次郎 出しなさい！

雅子 ふがー（「いやだー！」と言ってるらしい）

原田 森崎さん！

雅子、ごくんと嚙下。

原田 森崎さん！

雅子 （そのへんの湯飲みからお茶を飲む）

全員、呆然。間。戸田、床に座り込むが、原田に助け起こされて椅子に座る。

亮平 原田先生。

37

38

原田

亮平

原田

亮平

原田

亮平

原田

亮平

原田

亮平

原田

亮平

原田

亮平

中野渡

中野渡

亮平

中野渡

亮平

中野渡

亮平

原田

亮平

純子

亮平

純子

亮平

原田

亮平

原田

亮平

原田

はい。

どんな様子でした？その石井さん。

興奮状態でした。もう泣いてしまつて。

お母さんの方はどうでした？

冷静でした。

この件について何かお願いされましたが？

とりあえずこのことはくれぐれも内密にお願いしますと

念を押しておきました。

・・・仕方ないんじゃないでしょうか。・・・これも、な

かったことにするということで。

まさか、そんな。

遺書はあつたけど・・・食べちゃいました、なんてのは相当まずいでしょう？学校的に。

ま、それは、

この遺書のことを知ってるのは我々の他に？

石井加奈子と母親だけです。

なんとかなりますよね？

んー・・・

こうなったら一枚も二枚も一緒ですよ。

・・・判りました。

前と変わりありません。遺書は最初からなかった。みな

さん、いいですね？

それぞれに領いたり、領かなかったり。

もしも。もしもですよ。

はい。

三通目があつたらどうするんですか？

そんなことは、・・・ないでしょ。

・・・あの、すいません。

なんですか？

手紙の内容について、一応、お子さん達に事実確認をしたいと思います。

亮平 えっと、ですね。

原田 わかっております。遺書のあったことはお子さん達には

言いません。別の筋からの情報と言うことで。

亮平 でも、それは、

原田 もちろん、遺書の内容を鵜呑みにしているわけではあり

ません。一応ですから、万全を期すためですから。ま、

何事もないとは思いますが。

亮平 そうですか。ご配慮、感謝します。

原田 では、そういうことで、校長。

中野渡 ご苦勞様です。

原田 失礼します。

原田、退場。一同、席に戻る。

雅子 それにしても、悪いヤツよね。二通も遺書出すなんて楽

しんでるとしか思えないわ。

多恵子 ・・・・そんなことないでしょ。

雅子 そんなことあるわよ。よっぽど歪んでるのよ。性格。

戸田 (立ち上がり、雅子を睨み付ける)

雅子 あら、なにか文句あるの？

戸田 ・・・・道子さんは、必死に訴えていたんだと思います。

雅子 先生は信じているんですか？

戸田 何をですか？

雅子 お弁当箱に泥入れたり、革靴隠したり、ジャージ生ゴミ

戸田 に捨てたり。本当にそんなことあったんですか？

雅子 嘘をつく子ではなかったの。

戸田 それじゃあ先生。本当だったとしましょう。でも先生は、

戸田 そういうことがクラスで起きてるなんて全然ご存じな

雅子 ったんですよね？

戸田 ・・・・はい。

雅子 まったく知らなかったんですよね？

戸田 グループから孤立しているのは、知っていましたけど。

雅子 いいわけは聞きたくありません。

戸田 ・・・・

雅子 いくら新任だからってあんまりですよ。教員失格ですよ。

中野渡 生徒が可愛そうですよ。

中野渡 まあ、戸田先生も一生懸命やつのことですから。

雅子 お給料貰ってたら一生懸命やるのは当たり前でしょ？

中野渡 そうおっしゃいますけど、限界がありますよ。彼女も人

間なんですから。

雅子 そんなことアタリマエじゃありませんか。私だって人間

ですよ。

中野渡 そういうことを申し上げてるんじゃないんですが、

中野渡 スーパーのパートだって、ビルのお掃除おばさんだって

人間です。でも「私だって人間です」なんて言いません

よ。甘えるのでもいい加減にしてください。

中野渡 戸田先生は確かに、まだ若い。経験も不足しています。

でも、若いということは生徒の立場に立って物事を考え

ることが出来るということです。戸田先生、放課後は遅

くまで教室に残って、生徒の話を聞いているんですよ。生

徒もやつぱり、相談しやすいんでしょう。普段、大人し

くて自分の殻に閉じこもりがちな子たちが、どれほど救

われてるか判りません。

でも、彼女を救えなかったじゃありませんか。

戸田 ・・・・

雅子 生徒のハナシ聞いてたってホントに聞いてたんですか？

戸田 ちゃんと聞いてたら普通わかるんじゃないですか？い

じめは先生のクラスで起きてたんですよ。

戸田 ・・・・

雅子 なんにも気づかないなんて、冗談じゃありませんよ。こ

れは責任問題ですよ。先生がもつとちゃんとしつかりし

てたらこんな事にはならなかったんじゃないですか？

戸田、思わず部屋を出て行く。

まったく・・・。

中野渡

ご存じの通り、彼女が第一発見者です。人工呼吸も彼女が行いました。救急隊員が死亡を確認した瞬間、彼女、気を失ったんですよ。相当ショックを受けた様子で。いま、ああしてますけど、かなり気張ってる状態なんですよ。心配なんです。

雅子

心配？

中野渡

ええ。

操

冗談じゃありませんよ。人の子、閉じこめて人権踏みにじつておいて、よく言えますね。そんなこと。

中野渡

いや、それを言われましても。

操

子供の命より部下の命ですか？

中野渡

そういうわけではありません。

原田、登場。

原田

お待たせしました。

亮平

どうでしたか？

原田

はい。五人とも全く知らないそうです。

亮平

思った通りですね。

原田

はい。

亮平

なるほど。じゃあ、仕方ありませんね。遺書にあった内容の事実はなかったということです。もしあったとしても、他の誰かがやったということです。

次郎

そういうことで、いいんですか？

亮平

いいんです。

重宣

ちよつと待ってください。

亮平

え？

重宣

のどかに会わせてもらえませんか？

原田

いや、ですから、それはちよつと。

重宣

いますぐ、会いたいんです。

友子

あなた。

重宣

おまえは、黙ってなさい。

原田

もうしわけありません。先ほど八島さんにもご遠慮いた

操

だきましたので。そうですよ。我慢してくださいよ。

と、内線電話が鳴る。中野渡が出る。

中野渡

・・え？誰ですか、それ。あ、はい。・・えー、わかりました。とにかく行きます。

中野渡、受話器を置く。

原田

どうしたんですか？

中野渡

職員玄関に不審者が来てるそうです。

亮平

不審者？

中野渡

ちよつと、失礼します。すぐ戻りますから。

原田

私も行きます。

中野渡、原田、退場。

次郎

まったく、落ち着かないなあ。

純子

誰でしょうかね、

雅子

なんか、からかいに来たんじゃないの？その辺の不良が。

純子

まだ居るんですよ？テレビカメラ。

雅子

私が来たときは居ませんでしたよ。

あ、そ。

間。

雅子

でも、たいしたことないわよね。

純子

え？なにが？

純子

革靴隠したりとか、教科書落書きしたりとか、その程度のことは普通にあるでしょ。普通にあったでしょ。

純子

あー。

雅子

ズックに画鋲入ってたりとか、

雅子　でも、誰も死ななかつた。ちゃんと耐えて、卒業して、大人になった。

多恵子　昔と今は、単純に比較できませんよ。

雅子　そりや、そうかも知れないけど、ホント迷惑よね。

多恵子　それはあんまりですよ。

雅子　だってそうじゃない。この程度でさ。

操　この程度ってなによ。

雅子　え？

操　いじめられてる本人の前でそんなこと言える？

雅子　あー、言うかもね。激励の意味で。

操　馬鹿じゃないの。

雅子　え？

操　いじめられてる子の気持ちなんて、アンタには永遠にわからないわよ。

亮平　まあ、でも、革靴隠されて自殺しちゃう子ってのは、確かにいると思うんです。でも革靴だけじゃ死にません。

純子　どういうことですか？

亮平　道子さんは日々のプレッシャーによって、心理的に極度に不安定な状態にあった。つまり、パンパンにふくれあ

純子　がった風船みたいなものです。そうなればもう強い刺激はいりません。つまり、なぜ彼女が自殺したか、つてい

亮平　うことをもつと総合的に考える必要がある。

雅子　やつぱりバイトでしょう。しかも片親だし。

操　（雅子を睨む）

雅子　もとい、しかも親がパートだし。

亮平　やむにやまれぬ部分がそうとうあったんだと思います。

雅子　え？

亮平　パートタイマーの給料でムスメを星光に入れるのは大変

雅子　でしょう。

亮平　あー。

雅子　わざわざ電車乗り継いで、朝早くからパート。そうまで

亮平　して、社会的に経済的に無理をしてまで、我が子を星光

に通わせたかった。そこになんらかのひずみが生まれな

亮平　

雅子　

43

44

次郎

亮平

雅子

いはずはないと思います。ひずみ？
はい。母親の過度の期待は子供を追い詰めるものです。道子さんのバイトも家計を助けたい一心だったでしょう。それでわかりました。道子さんって、どうも思いこみ激しいんですね。偏執狂的っていうか。それが原因だったんですね。

と、戸田登場。

失礼します。

どうでした？

・ ・ ・ 普通にしてました。

普通って？

子供達、普通にしてました。

そりや、ニコニコしてるワケにはいかないでしょ。

・ ・ ・ はい。

先生、大丈夫ですか？

何言ってるんですか。全然大丈夫ですよ。

と、金髪の若者がいる。遠藤である。

誰だ、君は？

そこへ、駆けつける原田

君、困ると言っただろう！

すぐ終わるって言っただよ！

部屋から出なさい！

ちよつとだけです。ハナシさせてくださいよ。

言う事を聞かないと警察を呼ぶぞ！

ちよつと待ってください。（原田を制し）君は誰だ？

遠藤亨と言います。東京新聞の販売店の雇われ店長やつ

てます。

新聞？

道子さんがうちでバイトしました。

バイト？うちの生徒がバイトですか？

なんか、まずいんですか新聞配達？健全じゃないんですか新聞配達？

遠藤、一同を見回す。

先生ですか？・・・違いますよね？・・・じゃあ、

玄関に並んでた靴は、あんたらのだな？

なにが言いたいんだ、君は。

この手紙が、今日の夕方、届きました。

と、遠藤、ポケットから封書を取り出し、開く。

「店長、いつも優しくしてくれてありがとうございました。遅刻したときも怒らないでくれてありがとうございました。バイト料前借りさせてくれてありがとうございました」・・・「きつと、みんなにはなにか事情があったんだと思います。お話を聞いてくれてありがとうございました」

短い間。

「二年三組。志乃、翠、のどか、麗良、愛理」

遠藤、一同の様子をじっと観察する。

はーん、やっぱりねえ。もしかしたらと思ったたら、ビンゴですか。

あんたらのガキだな？道子を殺したのは？

雅子

あのね、道子ちゃんは何でだかわからないけど、自分で勝手に死んだの。迷惑してるのはこっちなのよ。

あんた、自分の娘が何したか知ってんの？

ウチの娘は関係ありません。

馬鹿言っでンじゃないよ！

遠藤

毎日毎日、カネ巻き上げたんだよ。最初は百円、二百円だったけど、そのうち千円、二千元になって。道子は断ったんだよ。ウチはビンボーだから払えないって。そして「バイトしてるのはわかってんだよ」って。「学校にチクられなくなったら出せ」って。

間。

そんな馬鹿な・・・

それは、道子さんから聞いたんですか？

そうだよ。

本当の話ですか？

頼むから黙っててくれって。道子はそう言ったんだよ。親にも学校にも黙っててくれって。だから黙ってましたよ。世の中にはひでーガキがいるんだ、っではらわた煮えくりかえってましたけど、ぐつとこらえて黙ってましたよ。

出て行きたまえ！さもないと本当に警察を呼ぶぞ。

そしたら、ウチでバイトしてるだけじゃなかったんだよ。えっ？

おととい、あんまり様子がおかしいから聞いてみたんだ。何でもないって言い張ってたんだけど、やっとしやべったんだよ。

なんて？

・・・エンコーさせられてたんだよ。道子。

えっ？

エンコーだよ、援助交際！

45

46

遠藤

雅子

遠藤

雅子

遠藤

雅子

遠藤

雅子

遠藤

雅子

遠藤

雅子

遠藤

雅子

遠藤

雅子

遠藤

雅子

遠藤

雅子

遠藤

雅子

遠藤

雅子

遠藤

雅子

遠藤

雅子

遠藤

雅子

遠藤

雅子

雅子
遠藤

ええっ？

「カネが稼げなかったらエンコーしろ」って言われて、嫌だって言ったら、あんたらのムスメ、道子に何したと思う？放課後の女子トイレに連れ込んで、寄ってたかって裸にして、写真撮って「これ、アップされたくなかったら言うこと聞け」って。

次郎

そんな馬鹿な！

昨日のうちに怒鳴り込んでりや、こんな事にはならなかったんだよ。そうすりやあ、道子は死なずに済んだんだよ。……だって、あいつ、黙っててくれって。泣きながら言うんだよ。お願いだから誰にも言わないでって。言うこと聞いちゃった私が悪いんだって……。

間。

遠藤

あんたら、本当は判ってるんだろ？あんたらのムスメ、最近、急に金回りよくなってるんじゃないの？ブランド品のバッグだの、化粧品だの、いつの間にか持ってたたりするんじゃないの？

雅子

そんなことありません！

じゃあ、ムスメの携帯調べてみなよ。俺の話がホントかどうかはつきりするから。

原田

え？

道子の裸の写真撮ったデータが、残ってるはずだ。親だったら自分の娘の携帯くらいチェックしてんじゃないのかよ！

遠藤

遠藤、携帯を取り出す。パカッと開けると待ち受け画面に道子の写真。それを一同に示す。

遠藤

ほら、道子だよ。顔中ニキビだらけでさあ、いつもくレアラシルつけてんだよ。「だって、私、ブスだから」「だって、私ブスだから」って。「馬鹿野郎、そんなこ

47

48

遠藤

と言うなよ、まだ中学生じゃねーか、そのうちすんげー美人になって自分でびっくりするぞ」「えっ？ホント」「ホントホント。そしたらデートしてくれよな」って。そしたらにつこり笑って。そりや、すんげー可愛い訳じゃないよ。でもそれなりにちゃんと可愛いんだよ。ほら見るよ。ガリガリに痩せてさ、胸なんかぺちゃんこでさ、チビで、腕なんかマツチ棒みたいに細くてさ。……オマエらの娘はそんな道子を裸にして写真撮ったんだぞ。毎晩、知らないオヤジに抱かせたんだぞ。中学生のすることかよ。人が人に対してすることかよ。人間じゃねーよ！

間。

今日はよかったです。念願叶いました。俺、ずっと思ってきました。親の顔が見たい、って。

遠藤、携帯画面を更に前に突き出す。

遠藤
原田

さ、謝れ。道子に謝れよ。さあ。

遠藤

君……
謝れっ！

戸田

戸田、ふらふらと前に出てくる。

許してください。全部私が悪いんです。許してください。

と、重宣、立ち上がる。

重宣
友子

先生は悪くありません。
あなた。

重宣、前に出、頭を下げる。

重宣
遠藤

もうしわけありませんでした。
・ ・ ・ ・ ・

遠藤、しばらく重宣を見ているが、やがて携帯をたたむ。

遠藤

いいか、ちゃんと責任取れ。オマエらの娘にちゃんと教えろ。人としてやっちゃいけないことをやったんだって、わからせろ。人殺しの罪、一生背負わせろ。ウヤムヤにするな。わかったな。

遠藤、原田の前へ。

遠藤

ありがとうございます。

原田

あの、

遠藤

もしよろしければ、もう少し話し伺いたいんですが。言いたいことは全部言いましたから。もういいです。

と、遠藤、遺書を原田に手渡す。

遠藤

(一同に向き直り) 失礼しました。

遠藤、退場。

亮平
次郎

人間じゃない、か・ ・ ・ 。
・ ・ ・ 全く失礼だ。きわめて不愉快だ。なんだってあんな男、学校に入れるんだ。ぶん殴ってやろうかと思ったよ、俺。

間。

49

50

次郎

「自分の娘の携帯くらいチェックしてんじゃねーのかよ！」って、馬鹿じゃないの。だいたい、今どきの中学生が自分の携帯、親に見られるようなヘマ、するわけないだろう。なあ。死んだ人間を悪く言いたくないが、だいたい、あんなヤツと付き合ってたなんて、どういう生活をしてたんだまったく。なあ。

と、雅子に同意を求めるが、雅子は無視する。

(原田に) まさか今の話、真に受けたじゃないでしょうね？
・ ・ ・ ・ ・

原田先生！

辺見さん。いま、彼に謝罪なさいましたね？ ・ ・ ・ なぜですか？

(遮るように) まあ、辺見さんの気持ちもわかりますよ。あんな風に言われちゃったらつい情にほだされますよ。そうですよね。

違います。

え？
覗いたんです。のどかの携帯。うちの家内が。

ええっ？
ホントですか？

・ ・ ・ テーブルの上に、出しっぱなしにしてあったもんですから。

わかったんですか、その・ ・ ・ (と、操作の手振り) ええ、なんとか。でも、だからのどかも油断したんです。

ようけど。
で、どうだったんですか？内容。

・ ・ ・ ・ ・ 。
皆さんに教えて差し上げなさい。

・ ・ ・ メールが入ってたんです。月面が言うこと聞かないから、写真を、なんとかしちゃおう、とか、そんな内

容で。

月面？

何のことだろうって思っ、他も開いてみたんですよ。

月面のやつ今日は千円しか持ってなかった。とか、月面、またあのジャージ着てたから制裁として今日はトイレに捨てよう、とか。

で、写真はあったんですか、その、例の。

・・はい。メールに、のどかと同じくらいの年頃の女の子が、裸でうずくまっていた。顔に見覚えがあつて、うちに来たことある子だな、ッて思っ、井上道子さん、だったんですね？

(頷く)

それは、誰から来たメールだったんですか？

・・・。

一人からですか？二人からですか？

・・・。

いづれ、五人のうちの誰かなんですね？

(顔を伏せる)

わかりました。

原田先生。

(遺書を取り出し) これはコピー取らせていただきますから。

・・・。

すいません、ちよつと、失礼します。

原田、急ぎ足で退場。ややあつて戸田も退場。

どういふつもりなんですか？

え？

どうしてそんなに自分勝手なことが出来るんですか？

自分勝手？

自分たちのしたこと、わかつてますか？

そうですよ。ひとりだけいい子になつて。

51

52

重宣
亮平

いい子になったワケじゃありません。あなたたちがしたことは密告です！世の中でもっとも卑劣な行為ですよ。

重宣

亮平

友子

亮平

友子

亮平

多恵子

次郎

多恵子

次郎

多恵子

次郎

多恵子

次郎

多恵子

次郎

多恵子

次郎

多恵子

次郎

多恵子

次郎

多恵子

次郎

多恵子

次郎

多恵子

次郎

多恵子

次郎

あの、皆さんにお伝えしなければならないことがあります。なんですか？遺書の件ですが、やはり親御さんに渡す事にいたしました。どうして？先に届いた二通に加え、遠藤氏にも届いたわけですから、こうなれば他にもあると考えるべきでしょう。それは、

中野渡、登場。

新聞社かも知れない。テレビ局かも知れない。

雅子 冗談じゃありませんよ。

中野渡 おつしやるとおりです。冗談じゃないんです。民事訴訟

も視野に入れなければなりません。つまり、学校と

して遺書を隠し通すことはもはや不可能ということす

亮平 公表するということですか？

中野渡 はい。警察にも報告します。それをこの場で了承してく

ださい。

亮平 なんで急に態度変わったんですか？

中野渡 変わってませんよ。

亮平 何かわかったんですか？誰か、自白したんですか？

中野渡 そんなことありませんよ。

亮平 情報をください。事情聴取は何処まで進んでるんです

か？携帯も調べたんでしょ？どうだったんですか？

中野渡 ・・・・

亮平 子供達よりあんな金髪の方を信じるんですか？

中野渡 とにかく事実確認を急いでおりますので、とりあえず

遺書の公表だけ、認めてください。

亮平 とりあえず、つてなんですか、とりあえずつて。

間。

重宣 私のかまいません。

操 私もいいですよ。

雅子 ちよつと、待つて。子供たちがどうなつてもいいの？・

・・・道子つてさ、星光の生徒なのにバイトしてたのよ。

校則違反なのよ。エンコーまでしてたのよ。ろくなもん

じゃないわ。遺書だつて、ただの言いがかりじゃない！

ねえ、（と、亮平に）

亮平 ・・・・

雅子 ちよつとお、なんとか言いなさいよ。

と、内線電話が鳴る。

53

54

中野渡

・・・・え、戸田先生が？いつ？・・・判りまし

亮平

た。すぐ行きます。

中野渡

どうしたんですか？

いえ、何でもあります。ちよつと失礼します。

中野渡、退場。

亮平

あれ本当ですかね？

雅子

なにが？

亮平

月面がどうしたこうしたなんていうメール、本当に来た

んですかね？

友子

・・・・それは。

重宣

わたしたちが嘘ついてるッて言うんですか？

亮平

何かの勘違いだったかも知れないでしょう？

重宣

事実は事実でしょう。

亮平

事実つて、誰が決めるんですか？大事なのはそこじゃあ

りませんよ。大事なのはいま、我々が団結するッてこと

だよ。

重宣

事実は事実だから変えられません。

亮平

だから、確かなことは何もないッて言ってるんですよ。

重宣

・・・・もう、いいかげんにしましょうよ。

重宣

え？

亮平

さっきの青年の言ったことは正しいよ。・・・子供が悪

重宣

いことをしたら、親は叱るべきだ。オマエがしたのは悪

いことだつて、教えてやるべきだ。罪は償わせるべきだ。

・・・・

亮平

あなたの気持ちはよくわかる。誰だつて自分の子供は可

重宣

愛い。だけど、いまわれわれが事実を認めなければ、子

供達はいつ責任を取るんですか？

亮平

そんな綺麗事言つて・・・

重宣

綺麗事じゃない。叱つて教えて立ち直らせて、まっとう

な道に進ませて。それが親の責任じゃないんですか？

亮平
重宣
亮平
重宣

認めちゃったらおしまいなんですよ。
そんなことない。人生は長いですよ。
あなたはなにもわかってない。

亮平

・・・私、警官だったんですよ。四〇年、警察に勤めま
した。そのうち一〇年、少年係でした。いろんなヤツい
ましたよ。クルマ盗んだり、クスリやったり、喧嘩で人
を刺したり。こいつはろくなもんにならねえって、みん
な思うんです。でも、どうにかこうにかちゃんと一人前
になるんですよ。そういうもんなんですよ。

亮平

不良が悪いコトするのはあたりまえじゃないですか。今
の時代はそんな単純じゃないんですよ。
おっしゃることがよくわかりません。

亮平

あのですね、今回のこと全部まるごと信用したらどうい
うことになりますか？五人で一人のクラスメートをいじ
めて、いたぶって、売春させて、殺したってことですよ。
わかってますか？・・・これ、どうやって認めさせるん
ですか？どうやって反省させるんですか？どうやって償
わせるんですか？どうやって立ち直らせるんですか。出
来るわけじゃないじゃないですか？

重宣

・・・でも、立ち直りますよ。親っていうのはそのため
にいるんだ。

亮平

・・・あんたは親じゃないでしょ？・・だからそんな気
楽なことが言えるんだよ。

重宣

そんなことはない。

亮平
重宣

無責任なんだよ。親の責任がないんだよ。あんたには！
確かに、わたしたちはのどかの親ではないです。去年、
あの子の母親が連れ合いに先立たれて。再婚するとき向
こうの家がどうしても連れ子は困るって言ったもんです
から、引き取りました。・・・退職金、丸ごと残ってま
したし、年金がいくら出ますからまあ何とかやってま
すけど、この学校に通わせるのはやっぱり大変です。で
も、せっかく苦労して入ったんだから、転校させるのは
可愛そうで。・・・のどこには窮屈な思い、させてしま

55

56

ってるかも知れません。

間。

重宣

のどかがね、自分で認めたんですよ。いじめのこと。

間。

重宣

先週、こいつから、メールの話、聞きました。私、のど
かを叱りました。のどかを叩きました。どうしてそんな
ことしたんだって。そしたら泣くんですよ。怖かった、
って。

雅子

怖かった？

重宣

はい。だから、わたし言ったんです。おまえのそんな気
持ちも、全部正直に話すべきだって。
学校に、ってことですか？

雅子

だって、五人全員知らないって言ってるんですよ。それ
は、どうしてですか？

重宣

わかりません。

亮平

わかんないってのはどういう事ですか！

重宣

わからないものは、しかたありません。

雅子

かつこいいこと言って、ホントは逃げようと思ってるん
じゃないんですか？

重宣

そんなことはありません。

次郎

ちよつと待ってください。のどちゃんから話を聞いた
のっていつのことですか？

重宣

五日前です。

次郎

五日前に、いじめの事実をわかってたってことですか？
はい。

重宣

わかってて、なにもしなかったんですか？

次郎

あの子が納得して、自分で学校に話すべきだと思ってい
ました。

次郎

甘いなあ、やっぱり甘いよ！
え？

重宣

あんたがすぐ、学校に言うとか、警察に言うとか、すれ
ばよかったんだよ。

次郎

そうかも知れません。
そうかも知れません、じゃないよ！

間。

友子

あの、のどから聞いたんですけど。……五人で
学校の帰り、五人で電車に乗って丸の内のゴディバに行
ったんですって。先週。

雅子

五人って、この、五人ですか？

ええ。一個一〇〇〇円の、こんなチョコレート、三〇個
箱で買って、両国駅前のカラオケボックスでみんなで食
べたそうです。でも、のどか、とても食べる気になれな
かったんですって。そのお金って、その、そういうお金
じゃないですか。でも食べないと仲間じゃないって言わ
れるの怖くて、食べて、ひとりになってから道ばたで吐
いて、うち帰っても吐いて。このごろ、ご飯全然食べな
いんですよ。痩せてしまつて、手なんか、年寄りみたい
にかさかさで。でも、私たちにはどうすることも出来な
いんですよ。

友子

じゃあ、なに？あんたんとこの孫だけ悪くないっての？
うちの子が悪いって言うの？

雅子

そんなこと言ってますせん。
志乃が、あんな明るい子がいじめなんかするわけないじ
やない。

亮平

うちの子だって同じですよ。

雅子

そんなこと言ってもしょうがないって言ってるでしょ。
自分の子供を信じろって言ったのはアンタじゃないの。
それはそうですけど、「ウチの子だけは」っていうのは
やめましょうよ。

57

58

操

レイラだけは違います。特別です。絶対に関わってませ
ん。

雅子

だから、なんであんたんとこだけ違うのよ？
だって、違うから。

操

向こうの教育受けてる人間は違うってこと？帰国子女つ
てそんなにエライの？

雅子

そんなこと言っていないでしょ！
じゃあ、なによ！

間。

操

いじめられてたのよ。レイラ。一一歳の時、ニューヨー
クから帰ってきて。実家の川崎の中学で帰国子女だつて
いじめられて。毎日青あざ作ってきて。鞆にマジックで
ガイジンって書かれて、そのうち学校行けなくなつて。
だから、転校してきたの。

純子

そこそこ名門だし。校長先生も「ウチには絶対にいじめ
はありません」なんて言うから。

操

今でもあの子、部屋に一人でいると、髪の毛一本一本、
抜き始めるのよ。あと、鉛筆、自分の手の甲に刺したり。
カッターで腕を傷つけたり。自分でも知らないうちにや
っちゃうの。まだ治らないの。だから、一人で置いてお
けないのよ。

多恵子

自傷行為……。
私のせいかって思うじゃない。小さい頃から父親いなく
て。日本に帰ってから、こつちで作った会社、向こう
と取引してるから、実家の母にレイラを預けてあちこち
飛び回って。ずっと、レイラをひとりぼっちにして。
・私のせいかって、思うじゃない。

間。

亮平 判りますよ。私だって親ですから。自分の子供がいじめ
なんかするはずがない。柴田さんもそうですよね？

(頷く)

亮平 じゃあなぜ道子さんは自殺したのか、ということが問題
になると思うんですよ。・・・やっぱり家庭じゃないで
すかね。母と子の二人暮らしだから、つまり母親ということ
です。直接、面識のある方はいないんですよね？

全員、頷いたり頷かなかったり。

亮平 経済的にはとても苦しかったと推測されます。

雅子 スーパーでパートじゃ、苦しいわよ。ねえ。

純子 ・・・・そうでしょうね。

雅子 子供もバイトしてるし。

次郎 あの店長もおかしいよな。

亮平 森崎さんもそう思いましたか？

次郎 思いますよ。

亮平 どう考えても尋常な様子じゃありませんよね？道子さん

へのこだわりが。

次郎 はい。言われてみれば。

亮平 あくまで推測ですが、何か特別な関係だったんじゃない

ませんか？

純子 まさか、そんな。

亮平 ホント、想像するのもおぞましいことです。でも、そう

考えたらつじつまが合うじゃないですか。つまり、辺見

さんが見た写真は、あの店長が撮ったんですよ。

次郎 それで、われわれをゆすりに来た？

亮平 そうかもしれない。遺書まで偽造してね。

多恵子 でも、遺書は他にも来てたじゃない。

亮平 来てないよ。もう存在しないんだから。

多恵子 そんな・・・。

亮平 援助交際っていうのも、自発的にやってたんじやないで
すか？そうでなければ、年間七〇万円の授業料をパート

59

60

雅子 の賃金だけで払いきれれるものでしょうか。
なるほど。

亮平 そうなると母親が援助交際させてた可能性もあります。

まさか。

雅子 いや、実際にそういう事例もあるんですよ。

おそろしい。

友子 のどかの話しはどうなりますか？チョコレート。

亮平 そのくらいのお小遣いはあげてるんじゃないですか？

森崎さん。

もちろんです。

次郎 一個一〇〇〇円が三〇個で、三万円ですよ。

友子 森崎建設の重役令嬢ですから、不自然ではないと思いま

すよ。ねえ。

ええ、まあ。

次郎 道子さんの家庭環境と母親の人物、生活、怪しいアルバ

イト先について、徹底的に調べて貰いましょうよ。いや、

学校にお任せするだけじゃなく、われわれの方でも独自

に調査するべきだ。ねえ。

次郎 会社で使ってる興信所、あります。

亮平 それは素晴らしい。

重宣 それでいいんですか、あんたたち？

亮平 自殺の真相を究明するんですよ。母親が怪しいのは確か

じゃないですか。

重宣 大事なことを忘れてないですか？

亮平 まさか、・・・正義とか言うんじゃないでしょうね。

・・・。

重宣 そんなモノで子供を守るわけじゃないじゃないですか。

と、戸田、ふらりと登場。

・・・。

戸田 先生、どうしたんですか？

雅子 歩いて、すぐそこなんです。おうち。

雅子
戸田

え？

黒い服じゃなくて失礼だったんですけど。ちゃんと、中に入れてもらいました。お線香も上げさせてもらいました。お話ししました。・・・そんなつもりじゃなかったんですけど、皆さんが来てるって話したんですよ。そしたら？

純子

雅子
珠代

だ生きなきゃならないの？それひどいよ。それ、あんまりだよ。

間。

あの・・・
私にも、来たんです。手紙。

珠代

と、珠代、登場。ゆつくり歩いて一同の正面に座る。何もしやべらない珠代。一同、凍り付く。
純子、過剰に反応している。

珠代

珠代、手紙を取り出す。

綺麗な顔でした。・・・なんかね、もつと、汚いもんかと思っただけですよ。ほら、言うじゃないですか。首を吊った人は眼球が飛び出て垂れ下がってるとか、舌がべろーんって長く垂れてるとか。全然そんなことないんですよ。白い顔して、つんとおすまじして、親が言うのも何ですけど、どう見ても美人さんなんですわね。

間。

珠代

泣きました。これからも毎日ずっと、泣くと思います。でも、なんか、道子は偉かったと思うんですよ。自分で考えて、自分で決めて、自分で実行出来たんですよ。道子を褒めてやりたいと思います。死んだら、楽になれるんですかね。死んだらあの世に行って、お父さんに会って、楽しく暮らせるんですかね。・・・警察のひとが言ってました。首吊りは苦しくないそうです。脳に酸素がいなくなると、一瞬で気を失って、一〇分も経たないうちに、心臓止まるそうです。・・・でも、そんなこと言われてもねー。あー、そうか、それならよかった、なんて思えないですよ。・・・あんなには楽しいよ。死んじゃったんだもん。私、まだ生きるの？私、ま

珠代

「二年三組。志乃」

間。

珠代

だれ？

次郎、雅子、顔を見合わせる。珠代、その顔を見る。

珠代 「翠」・・・だれ？

珠代、亮平と多恵子を見る。

珠代 「のどか」

珠代、重宣と友子を見る。

珠代 「麗良」

珠代、操を見る。そして、純子に視線を移す。

珠代 ・・・柴田さん。これ、どういうこと？

純子 あんた一人ねじ込むのに、私がどれだけ頭下げて回った

と思うてるの。だって、あんたが困ってるって言ったから。ダンナがリストラされて大変だって、泣いてたから

・・・。

純子 恩を仇で返すってこういうことだね。

純子 ・・・ごめんなさい。

純子 似たもん同士だっと思ってた。友達だっと思ってた。馬鹿だよ、私。

純子 ごめんなさい・・・。

珠代 先生。

戸田 はい。

戸田 子供達、いるんですね？

珠代 はい。

珠代 どこですか？二階ですか？

と、珠代、立つ。

ちよっと、待ってください。

なんで？

あなたの気持ちはわかります。でも、まだ、事実も確定してないんです。

え？

いじめは・・・なかった、かも知れないじゃないですか

じゃあ、なんで道子は死んだんですか？

いや、それは。

あなたたちの子供が殺したじゃないんですか？

あのですね。

殺してやる。

・・・。

殺してやる。

珠代、退場しようとする。戸田、その前に立ち足はだかる。

許してあげてください。

どいてください。

許してあげてください。志乃さんも、翠さんも、のどか

さんも、麗良さんも、愛理さんも、心から反省していま

す！本当です。許してあげてください！おねがいます。

おねがいます！

珠代、無言で戸田の髪を鷲掴みにし、引き倒す。裸足で戸田を何度も蹴る。物音を聞きつけた中野渡と原田、駆けつけるが、これを止めることが出来ない。やがて珠代、戸田を蹴るのをやめ、しばらく戸田を見下ろす。

原田 井上さん！
珠代 帰ります。・・・道子のお通夜ですから。

珠代、退場。原田、後を追う。
中野渡、戸田を抱き起こす。

中野渡 戸田先生、大丈夫ですか？

戸田 大丈夫です。

中野渡 ひとまず保健室に行きましょう。

戸田 大丈夫です。

戸田、中野渡の手を払い、よろよろ立ち上がる。

亮平 なんで謝ったんですか。

中野渡 え？

反省してるって、なんですか。あの子たちは本当に反省してるんですか？反省してるんですか？

・・・してません。

なんで嘘をつくんですか！

・・・すいません。

いや、戸田先生は生徒を守るために言っただけですよ。

罪を認めたら本末転倒じゃありませんか。

教師としては立派な行いだとお考えいただけませんか？

とんでもない。大迷惑ですよ。

あの子たちが本当にそんなことしたのかどうか、私には

わかりません。

何を言ってるんですか？

校長先生。・・・私、やっぱり教員失格です。

え？

許せないんです。

許せない？

あの子たち、普通なんです。普通にしてるんですよ。控え室で。

中野渡 戸田

それが、どうしたんですか？

「なつきー、ねー、まだ帰れないのお？」「なつきー、トイレ」「なつきー、腹減った。ピザ取って、ピザ」・・・あんた、わかってる？道子ちゃん死んだのよ。わかる？「あーあ、死んじゃったのか」「ねー、葬式ってみんなで行くのお？」「ねー、葬式って制服じゃないとダメえ？」

間。

戸田

この世でいちばんあの子たちを殺したいって思ってるのは、道子ちゃんのお母さんじゃありません。私です。

戸田、一同を見回し、頭を下げる。退場。

中野渡

すいません、失礼します。

中野渡、後を追う。

純子 雅子

（雅子に）すいません。私、（ため息をつく）

原田、登場。

純子

あの、井上さんは？

原田

学年所属の教員に、ご自宅まで送らせました。

亮平

そうですか。

原田

原田先生。

亮平

はい。

原田

なにか、判ったんですか？子供達は何か話しましたか？

亮平

なにも。

原田

そうですか。

原田

知らない、わからないの一点張りです。

65

66

重宣

原田

重宣

原田

重宣

原田

重宣

亮平

重宣

亮平

重宣

亮平

原田

亮平

原田

亮平

重宣

原田

重宣

原田

亮平

原田

亮平

原田

重宣

亮平

重宣

亮平

重宣

亮平

重宣

亮平

亮平

のどこかも、ですか？

はい。

のどこかも、何も言わないんですか？

はい。

本当に、何も言わないんですか？

そうです。

あの、やっぱりのどかに会わせてもらえませんか？

辺見さん。

はい。

これ以上余計なこととして欲しくありませんね。

なにが余計なことですか。

(原田に) 携帯、調べましたよね？

はい。

データは出て来ましたか？

いえ。

全員の証言が一致している。そして証拠もない。これで

もう十分じゃないんですか？

先生、

はい。

あの子、わたしには言ってくれたんです。いじめのこと。

なにからなにまで全部話してくれたんですよ。

ホントですか。

でも、今は認めてない。それがすべてじゃありません

か？

んー。

なにか、あったんですよ。

なにがあるって言うんですか。事実です。事実です。受け

止めなさいよ。

のどかが嘘をつくはありません。

まだ言ってるんですか、そんなこと。結局あんたは自分

の孫が可愛いだけなんだろ！

違います。

じゃあ、説明してみろよ。なんでこんな事になってるの

重宣

か。

それは・・・

間。

友子

・

重宣

友子

重宣

友子

重宣

亮平

重宣

亮平

重宣

亮平

重宣

亮平

重宣

友子

重宣

友子

亮平

友子

重宣

友子

重宣

友子

重宣

友子

重宣

友子

か。

それは・・・

間。

すみません。・・・私が言ったんです。のどかに。・・・

本当のこと、言うなって。

おまえ・・・。

のどか、ずいぶん気にしてました。おじいちゃんに怒ら

れるって。約束破っちゃうって。でも、私、言ったんで

す。大丈夫だよ、おじいちゃんもわかってくれるって。

それは、間違ってるよ。

・・・わかってます。

・・・。

卑劣だなあ。・・・あんたたちの言ってた正義とかなん

とか、その程度だったんですか。やっぱり結局自分の孫

だけは可愛いわけだ。

・・・。

あんたみたいなのを偽善者って言うんだよ。

・・・。

昼頃、メールが来たんです。友達から。・・・これは

言わないでくれって、のどかに口止めされてたんですけ

ど。

え？

おばあちゃん、どうしよう、ってのどかが言うから見せ

て貰ったんです。・・・今日、なにがあっても絶対に何

も言うな。言わなければナント力なる。携帯のデータも

全部消せ、って。

おまえ、それで、か。

おばあちゃんはお母さんのつもりで一緒に暮らしてる

んだよって言ったたら、のどか、泣いちゃって。私が守っ

てあげなきゃって、そう思ったんです。・・・すみませ

ん。愚かでした。

原田 誰からのメールだったんですか？
友子 ……。
原田 誰からのメールだったんですか？教えてください。
友子 (亮平の顔を見る)

全員の視線が亮平に集中する。

亮平 そんな、馬鹿な。
友子 ……。
亮平 ウチの子がそんなことするはずないじゃないですか。
純子 だって、今の子はすぐ口裏合わせちゃうんですよ？
亮平 それは一般論ですよ。だって、そのメールだってもう消去したわけでしょ？
友子 そうですけど。
亮平 じゃあ、どこにも証拠はないじゃありませんか。あんた達が私を陥れようとしてやった可能性もある。
重宣 そんなことするはずがないじゃないか。
亮平 じゃあ、証拠を持ってきてみろよ。証拠。
重宣 いいかげんにしなさい。
亮平 なにがいい加減だ！あんた、自分の責任忘れてるんじゃないのか？
重宣 ……え？
亮平 あんた知ってたんだろ？五日も前に、孫から聞いてたんだろ？あんたがいじめを見過ごしたせいで、道子ちゃんに死んだんじゃないか。
重宣 いや、それは…。
亮平 普通、動くだろ。普通、なんかするだろ。それが子供からのサインを受け取って事じゃないのか？
重宣 ……。
亮平 あんたがちゃんと親の義務を果たしてたら、道子ちゃんには自殺しなくても済んだんだ。そしたら、こんなことにはならなかったんだよ！
重宣 それは…そのとおりかもしれません。

69

70

亮平 わかったら謝れ。
多恵子 それ、ちよつと違うんじゃないありませんか？
亮平 オマエは口を出すな。
多恵子 ……。
亮平 さ、謝れ！

重宣、亮平に頭を下げる。

重宣 もうしわけありませんでした。
多恵子 ちよつと、辺見さん…。
友子 もうしわけありませんでした。
亮平 俺だけじゃなく、全員に謝れ。
重宣 みなさん、もうしわけありませんでした。
友子 もうしわけありませんでした。

重宣、友子、全員に深く頭を下げる

多恵子 やめてください。辺見さん。
亮平 余計なことするな。
多恵子 辺見さんのせいじゃないでしょう。
亮平 じゃあ、誰のせいなんだよ。
多恵子 辺見さんを責めるんだったら、私たちはどうなの？
亮平 え？
多恵子 あなたは翠のサインを受け取ったかって聞いているの。受け取ってるよ。
亮平 嘘。
多恵子 そんなことはない。
亮平 あなた翠のことなんにも見てないじゃない。
多恵子 今ここでそんなハナシしなくてもいいだろ。
亮平 だから、見てないでしょ？
多恵子 ちゃんと、コミュニケーションしてるじゃないか。
亮平 床に正座させて、怒鳴って。殴って。殴って。それがコミュニケーションってこと？

亮平 俺は翠のためを思つて・・・
多恵子 翠はよくやつてゐるわよ。一生懸命勉強して、星光に合格して、あなたの期待に応えてるじゃない。

亮平 ・・・・そうだな。

多恵子 翠、先週から見たことない指輪してるの。あなた、気づいてた？

亮平 ・・・・。
多恵子 財布が新しくなったの。皮の、黄色い、大きなやつ。気づいてた？

亮平 ・・・・。
多恵子 晩ご飯、半分残すようになったの。目を見て話さなくなつたの。トイレの戸、蹴って開けるようになったの。毎日私より帰り遅いの。あなた、何も知らないでしょ？

亮平 ・・・・。
多恵子 携帯の請求、今月分、六万だったの。どう思う？

亮平 ・・・・。
多恵子 嘘。ホントは知ってたんでしょ？面倒なことは見ないようにして、誤魔化して。だからいじめがないのよ。あなたのクラス。それともアレ？教頭試験にも受かったし、経歴に傷つけるわけにはいかないってこと？

亮平 うるさい！

亮平 亮平、多恵子を平手打ちする。

多恵子 結局、それでしょ。あなたは。それしかないんでしょ。それでしか他人とつながれないんでしょ。

亮平 黙れ！

亮平 亮平、ふたたび多恵子を平手打ちする。

多恵子 ・・・・私が言ったの。翠に。

亮平 え？

多恵子 友達にメール打って。黙ってればなんとかなるから。

71

72

何もしやべるなつて。先生達は、本当のことを聞き出せるなんて思つてない。むしろ「何も知らない」つて言つた方が安心するから大丈夫だつて。

おい。

亮平 (原田に) すいませんでした。

原田 ・・・・。

雅子 あ、それつて・・・ウチの志乃にも・・・？

多恵子 今の子たち、口裏合わせるの上手なんです。クラス全員でも完璧にやつちゃうんだから、五人なんて楽勝ですよ。

亮平 ・・・・おまえ、全部知つてたのか？

亮平 いつわかつた？

多恵子 先月。

亮平 なんでわかつた？

多恵子 ケータイのロックつてかんたんに外せるの。

亮平 ・・・・なんで、俺に言わなかつた？

多恵子 ・・・・なんで、俺に言わなかつた？

亮平 ・・・・。

亮平 亮平、がつくりとイスに崩れ落ちる。間。

雅子 じゃあ、いままでのことは全部、本当つてことなの？

多恵子 ・・・・。

雅子 ・・・・。

多恵子 ・・・・。

多恵子 すみません。

雅子 あなたが謝ることじゃないでしょ。

原田 (原田に) ご迷惑、お掛けしました。

操 ・・・・いえ。

多恵子 それ、本当に、レイラも、つてこと？

操 (頷く)

多恵子 ・・・・どうして。

多恵子
・ ・ ・ ・ ・

間。

操 原田先生。
原田 はい。

操 レイラのところ、行ってもいいですか？

原田 えーっと、それは。

操 話したいんです。正直、信じられませんが。私が行けば、ちゃんと話すと思うんです。・ ・ ・ お願いします。

原田 レイラさんはこの廊下突き当たりの美術準備室にいます。倉田先生がいますから。

操 わかりました。

原田 私も、まもなく参りますので。

操 はい。失礼します。

操、退場。

次郎 私たちも、いいですか？

原田 はい。・ ・ ・ 志乃さんは食物室です。判りますか？

雅子 判りますよ。OGなんだから。

原田 はい。

雅子 いずれ、ちゃんと話を聞いてからです。

原田 わかってます。

雅子 でも、そうなったときは、出来る限りのことをさせていただけます。

原田 はい。

雅子 全校集会、出られなくなるかもしれません。

原田 ・ ・ ・ ・ ・

雅子 じゃ、ごめんください。

次郎 ごめんください。

次郎、雅子、退場。

73

74

純子

と、純子の携帯が鳴る。

・ ・ ・ はい。・ ・ ・ 何回電話したと思ってるの？留守電聞きなさいよ。・ ・ ・ いまどこ？・ ・ ・ えー？・ ・ ・ 寄っただけって、あんたさ。・ ・ ・ 本当に行つたの？叔父さんとこ？・ ・ ・ あ、そ。・ ・ ・ 仕方ないよ、叔父さんとこだって苦しいんだから。・ ・ ・ うん。なに、大当たり？・ ・ ・ プーさん、ってなに？ぬいぐるみ？・ ・ ・ スヌーピー？・ ・ ・ どっちでもいいわよそんなの。・ ・ ・ そりゃ、あんたの気持ちはわかるけどさ。いつまでもそんなんでどうするのよ。・ ・ ・ うん。いま学校。・ ・ ・ ちよっと、電話じゃ話せない。・ ・ ・ あたしたち、大変なのよ、これから。・ ・ ・ いや、そっちはなくて。・ ・ ・ いや、そっちもだけど。・ ・ ・ がんばらなくちゃ。・ ・ ・ がんばろう。がんばろうね。・ ・ ・ いいの、あとで話すから。早く帰ってきて。愛理と二人で待ってる。・ ・ ・ あー、ちよっと待って。やっぱりスヌーピーの方がいいかも。・ ・ ・ じゃ。

純子、携帯を切る。

じゃ、私も。

原田 はい。理科準備室です。

純子 ご迷惑お掛けしました。

原田 じゃ、よろしくお願いします。

純子 失礼します。

純子、退場。

重宣 このたびは、申し訳ないことをいたしました。
原田 いえ。のどかさんは、二階の多目的室です。
重宣 えーと、ちよっと、判りません。
友子 大丈夫です。私もOGですから。

原田　　そうなんですか。
友子　五四年前と場所が変わってなければね。
原田　それはちよつと、どうでしょうか。ご案内した方が良さ
　　そうですね。
友子　いえ、結構です。久しぶりに歩きます。二階の廊下。
原田　判りました。
重宣　これから三人で道子さんのお通夜に行きたいんですが、
　　よろしいですか？
原田　・・・それは、かまいませんが。
友子　じゃ、のちほど。
原田　よろしくお願いします。

重宣、うなだれる亮平に近づき、亮平の肩にぽ
んと手を置く。重宣、友子の後について退場。
部屋は原田と亮平、多恵子のみ。亮平はうなだ
れたまま。

原田　どうされますか？
多恵子　・・・・・・
原田　では、職員室にありますので。
多恵子　すいません。夜遅いのに。
原田　いえ、まだやること山ほどありますから。
多恵子　ご苦労様です。
原田　翠さんは職員室のとなりの印刷室にあります。
多恵子　はい。
原田　・・・あの
多恵子　はい。
原田　翠さんは、いい子です。
多恵子　・・・・・・
原田　では、後ほど。

原田、退場。間。

多恵子　・・・どうしますか。これから。
亮平　・・・・・・
多恵子　とりあえず翠と話すよね。
亮平　・・・・・・
多恵子　そのあとは、どうしましょうか。
亮平　・・・・・・
多恵子　お通夜には行きますか？
亮平　・・・・お通夜。
多恵子　そう。
亮平　・・・そうだな、ひと一人死んだんだもんな。
多恵子　うん。
亮平　・・・・翠、大丈夫かな。
多恵子　・・・・・・行きますか？
亮平　行かない。
多恵子　どうして？
亮平　簡単に謝罪しちや駄目だよ。裁判もあるのに。
多恵子　そうか。
亮平　軽々しくは行けない。翠のために。
多恵子　うん。
亮平　変かな？
多恵子　変じゃないよ。生きていかなきゃならないんだから。
亮平　そうか。
多恵子　そう。生きていかなきゃ。
亮平　そうだな。

溶暗。